

営農ウィークリーNEWS

「花菜」オンライン産地見学会 が開催されました！

2月21日、公益社団法人京のふるさと産品協会主催によるオンライン産地見学会が長岡京市の花菜栽培ほ場で開かれました。

産地見学会は、飲食店や料理人を対象にブランド産地の魅力や栽培方法を見て体験してもらうことなどを目的に行われています。

コロナ禍により新たにZoom配信による取組も行われ、30人定員の視聴と一般公募による10人限定の現地視察会が開催されました。

公益社団法人京のふるさと産品協会では、今後も府内のブランド各産地の旬を迎えるブランド京野菜の紹介を計画されています。



花菜の説明を行う長岡京花菜部会 森田部会長



「ねっとショップ」の登録者数が 500人を超えました！

2022年6月1日より始めたインターネットによる肥料・農薬などの受注システム「ねっとショップ」の登録者数が500人を超えました！ご利用、ありがとうございます。

今後、拡充をさせていただきながら、商品なども幅広く掲載を検討しておりますので引き続きよろしくお願い申し上げます。



-TAC information-

ご利用申込を、受付
しております！
最寄りの経済センタ
ー窓口または、各エ
リア担当までお気軽
にお問い合わせくだ
さい。

作付前に土づくりをしっかり行いましょう！



近年、温暖化や異常気象の影響により栽培環境が変化し、予測できないことも多く発生する傾向にあります。

高品質な農産物を安定的に生産供給するためには、しっかりとした土づくりが重要です。水稲の場合は、収穫後の土づくりが、翌年の収量や品質に大きな影響をおよぼします。

刈取り後、放置され腐熟の進んでいない稲わらの春鋤き込みでは、稲わらの腐熟が進まないことで、代かき、田植えの作業性が悪く

なるだけでなく、浮きわらにより苗が倒れやすく、生育初期に窒素不足を起こします。

また、特に多いのが、急激な温度上昇により、稲わらの急激な分解で植えた苗の根傷みや根腐れを起こして生育の抑制してしまうことです。

このようなことから、刈取り後は、「石灰窒素」を10アール当たり20kg施用し、鋤き込みましょう。

土づくり資材として必要な（りん酸）（苦土）（けい酸）（石灰）を含んだ「とれ太郎」を秋から冬季にかけての荒起こし前又は、春先の耕起時に10アール当たり80～100kg施用しましょう。

また、当JAが製造販売する「JA活緑」を10アール当たり1,200kgと「アツミン」を10アール当たり40kg施用しましょう。

